

・・・編集後記・・・

2020年代も半ばに差し掛かり、医療や教育の現場はこの数年で大きく様変わりしました。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を契機に広がったオンライン授業やデジタルツールの活用は、対面授業が再開された現在においても、オンデマンド教材やハイブリッド形式として定着しつつあります。時間や場所にとらわれない学習環境が整う一方で、学習者自身の主体的な学びの重要性も、改めて認識されるようになりました。

医療現場に目を向けると、タスク・シフト／シェアの進展に伴い、臨床検査技師に求められる役割も着実に広がっています。遺伝子検査や質量分析といった新技術に加え、デジタル化やAIの導入も進み、検査を取り巻く環境は日々変化しています。こうした変化に対応するためには、知識の習得にとどまらず、現場で活用できる実践力を身につけることが不可欠です。そのため卒前教育においても、臨地実習前評価の見直しや、実践力を意識した教育への取り組みが進められています。基礎と応用を段階的に積み重ねる教育の重要性は、今後

ますます高まるでしょう。

本号に掲載された論文からも、教育現場におけるさまざまな工夫がうかがえます。模擬試験の解析による学習支援、教育機関間の連携基盤の構築、さらには機械学習を活用した指導の試みなど、いずれも今後の教育の方向性を示唆するものです。

また、感染対策や薬剤耐性 (AMR) への対応は、コロナ禍を経た現在においても引き続き重要な課題です。臨床検査技師には、検査を正確に実施するだけでなく、その結果をいかに臨床へ還元するかという視点が求められています。検査データを適切に解釈し、他職種と連携しながら医療に貢献する姿勢は、これまで以上に重要となっています。

このような変化の中で、教育機関と医療機関が連携し、情報や経験を共有しながら人材育成に取り組む意義はますます高まっています。本誌が今後も、現場に根ざした知見と実践を共有する場として、その役割を果たし続けることを期待します。

(令和8年3月12日 編集委員 米谷正太)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

日本臨床検査学教育学会 学術部

編集委員会(令和7年・8年度、五十音順、敬称略)

副理事長(学術部)：高崎昭彦(四日市看護医療大学)

委員長：多田達史(香川県立保健医療大学)

副委員長：吉田祥子(東京工科大学)

委員：木村明佐子(国際医療福祉大学)、塩竈和也(藤田医科大学)、下廣 寿(鳥取大学)、
副島友莉恵(東京科学大学)、徳原康哲(香川県立保健医療大学)、中原正子(広島国際大学)、
中村彰宏(天理大学)、野坂大喜(弘前大学)、三上あかね(東京工科大学)、
溝越祐志(神戸常盤大学)、本木由香里(山口大学)、米谷正太(杏林大学)

査読者(第18巻1・2号)：川邊美智子、小林由紀、關谷暁子、高松邦彦、土井洋輝、富安聡、中村彰宏、
廣田雅子

臨床検査学教育 第18巻 第2号

令和8年9月1日 発行

発行人：一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
理事長 坂本秀生

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-10-7
日本臨床衛生検査技師会内
Tel. 080-7228-0508
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail : edit@jamte.org

制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0042 東京都中央区入船 3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社：(株)日本廣業社
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-11
Tel. 03-3238-7501